



子どもと大人の共同プロジェクト

校長 藤森克彦

長い夏休みが終わり、日焼けした子どもたちが元気に戻ってきました。この夏は記録的な猛暑が続き熱中症の心配もありましたが、子どもたちに大きな事故や事件もなく全員そろって始業式を迎えることができうれしく思います。

さて、先週8月23・24日に、5年生と一緒に日光林間学園に行ってきました。ほどよい天候の中、都会では味わえない大自然の空気に浸ることができました。今年度、品川区日光林間学園は全ての学校で一泊二日の実施となりましたが、宿舎で仲間と寝食を共に過ごした時間は何のものにも替えがたい経験になりました。戦場ヶ原のハイキングは、夏のシーズン終盤ということもあって他校の小学生や観光客とほとんど会うこともなく、静かな風の音を聞きながら堪能することができました。

歩いている途中、子どもたちが「セミの鳴き声が全然しないよ」と言っていました。私もセミの鳴き声がかかっているか耳を澄ましていましたが、まったく聞こえないのです。宿舎の周りの林でも街中でもです。宿舎に戻ってセミのこと少し調べてみましたが、鳴くのはオスだけで自分のいる場所をメスに知らせる求愛行動だということが分かりました。土の中から出てきて、成虫になって1週間ほどの繁殖期が過ぎると鳴かなくなるというわけです。セミの種類にもよると思いますが、すでに日光ではその時期が過ぎ、秋が近づいていたことが分かります。教員になって今まで何十回と日光にきましたが、セミのことなど意識したこともなくまったく知りませんでした。昆虫に関してこの程度の知識が分かっていたら、子どもたちの気付きやつぶやきを拾って、身近な自然への好奇心を伸ばすことができたのではと反省しました。

思い出したのですが、以前読んだ本に、子どもの知的好奇心は周囲の大人と協力して育むもので「子どもと大人の共同プロジェクトの産物」だと書いてありました。子どもに何かを体験させたり映像やコンテンツを与えたりすれば、おのずと興味関心をもって好奇心が湧くわけではなく、知的好奇心として花開かせるためにはいくらかの知識が必要だということです。子どものうちに価値ある様々な体験をさせることは大切であり、そこから自然と素晴らしい知的な世界が広がるとしたら喜ばしいことです。しかし、実際はそううまくはいきません。せっかく体験したのに、体験したことだけで終わってしまうことはないでしょうか。

知的好奇心が知識の獲得の原動力になるのと同じぐらい、知識が知的好奇心を育む原動力になることもあります。また、子どものころは自分の興味の範囲外に目を向けて学ぶことが苦手ですが、できればいろいろなことに興味をもち、自分の知らない世界から一歩踏み出して好奇心を広げたいところです。そのためにも、日頃から周囲にいる大人の役割が欠かせません。

多くの質問をする子は、周りの大人（特に親）から多くの質問を受けているという話も聞きます。その質問自体の答えは出せなくても、そこから膨らませてさらに知的な話が広がっていく。そうした大人とのかかわりを通して、子どもの中で「知識のデータベース」が膨らみ、それがまた新たな体験をして結びつくことで知的好奇心へと発展していくのではないのでしょうか。

昔、私が担任をしていたころ、夏休みの自由研究として、親子で山手線に沿って完歩した記録集というのがありました。そこには、町の中で気付いたことが写真とともにたくさん書かれていました。ひたすら集中して歩くことも大切かもしれませんが、この自由研究はそういう雰囲気ではなかったようです。きっと、初めて訪れる街の風景を見た子どもの気付きやつぶやきに、お父さんやお母さんが「そうだね、よく気が付いたね。これはね…」と応えている姿が目に見えませんでした。

5年 日光林間学園

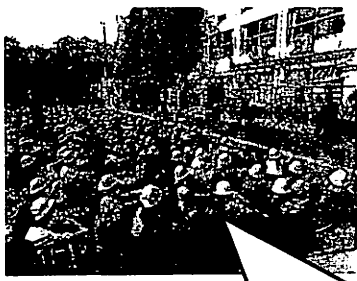
5年担任 上埜 和也

8月23日(火)・24日(水)の一泊二日で日光林間学園に行ってきました。初めての宿泊行事に臨む子どもたちが掲げたスローガンは「自然と共に絆を深め、共同生活の中で自立して、今までにない成長や思い出に残る日光林間学園にしよう」でした。2日間という短い期間ではありましたが、スローガン通りに、様々な場面で立派に活動できました。

それぞれが自分のやるべきことを考え、必要なときは声をかけ合って友達と協力する。しおりを読んで次の見通しをもち行動することや、部屋の片付けや係活動で友達と協力して進めた経験は、子どもたちの心を一段と成長させ、自立へと近付いていく一歩となったように思います。

2学期からの学校生活では林間学園での成長を生かしつつ、大井第一小学校の高学年としてより頼もしい姿を見せてくれるはず。保護者の方をはじめ、この日光林間学園を支えてくださった方々に心より感謝いたします。

1日目 ハイキング キャンプファイヤー



7時半に学校集合、出発式を終えて、いよいよ林間学園スタート!

雄大な男体山をながめつつ、戦場ヶ原をひたすら歩く。ちょっとつかれてきたかな……。



長時間歩き続けたあと、大自然の中で食べるアイスは率直に言って最高です!



キャンプファイヤーを囲んで、学年全員でレク。最後は英詞のパズリカ!

1日目の夕食はカレー。食事係が配膳の準備です。



2日目 ふくべ細工(日光伝統工芸)体験 ラジオ体操 大谷資料館

ラジオ体操でさわやかな朝のスタート。朝から元気にひわっています!



ふくべ細工職人さんに、ドリルで穴をあけてもらいます。



どんな作品に仕上がるかな。



大谷資料館の中は12℃! 上着が必須。幻想的なライティングに目をうぼわれ……。

夏のおわりに素敵な思い出ができました。支えてくださった方々に、感謝です!

今から 10000 年以上も前の狩猟時代に小学校があったら…

狩猟時代の小学校の時間割

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1 時間目：マンモスを安全に狩る方法 | 2 時間目：狩猟道具の作り方 |
| 3 時間目：食べられる植物の見分け方 | 4 時間目：狩猟実習 |
| ※ 4 時間目に獲物が捕れたら給食あり | |

のような時間割でしょうか。狩猟時代は、獣や魚を捕えること、植物を採ることが生活の中心だったそうですので、もし小学校があったとしたら、そのような生活に対応する力を身に付けさせる授業が行われていたのではと妄想してしまいます。

内閣府が作成した図1によると、狩猟時代は「Society1.0」、現在を「新たな社会“Society5.0”」を目指す段階としています。Society1.0と5.0において子どもたちに育みたい力は当然のように違います。今、「マンモスを狩る時は一人ではなく集団で狩りましょう。弓を使う際は、マンモスの体のどの部分をねらうのが効果的でしょうか？分かる子は手を挙げてください。」なんて授業している学校はありません。狩猟時代と今の比較は極端過ぎますが、「狩猟→農耕→工業→情報→…」というように時代の変化に応じて学校が育成すべき力は変わってきました。実際に文部科学省は、これからの新しい時代の初等中等教育の在り方として「解き方があらかじめ定まった問題を効率的に解ける力を育むだけでは不十分である」としています。つまり、これから学校は、グローバル

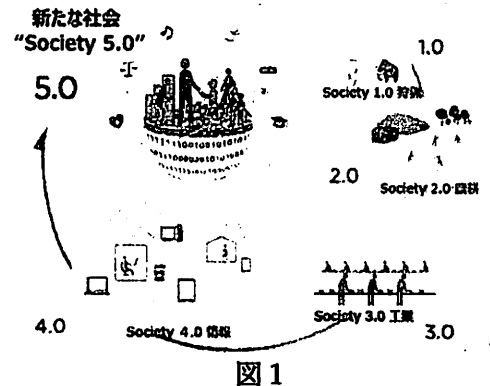


図1

化や AI 等の技術革新といった急速な社会の変化に伴い、「子どもたちにどのような力を育むか」を考え、その力を育成する教育を実現することが求められています。

教育界のそのような時風の中、本校では、Society5.0を担う子どもたちが身に付ける力として、

- ・ 正解のない問いに試行錯誤して取り組み、自分なりの考えをもつ力
- ・ 多様な人々と考えを共有し、互いを尊重し合いながら議論、合意形成をする力
- ・ 社会の主体者として、よりよい学校・社会の実現に向けて他者と協働して働きかける力

の三つを定め、今年度からそれらの力の育成を目指し研究を進めています。

研究の鍵となるのはタブレット (iPad) です。タブレットを活用した教育と聞くと「AI 搭載のドリルを活用して、効果的に問題に取り組む学習」を想像する方がいるかもしれませんが。私たち教師も、状況によってはAIドリルを活用した学習は効果的だと考えています。しかし、「今、Aさんは～ができるようになるといいよ！だから次は～の復習をしよう！」「復習の成果が出てきたから次は～を学習しよう！」というように、AIの指示通りに学習しているだけでは本校が定めた三つの力、特に主体性を育むことは難しいでしょう。やはり重要なのは、教師が子どもたち一人一人の学習記録 (課題に対する考えや子ども同士の対話の記録) から、その子に三つの力がどの程度育まれているかを把握し、「Aさんはこれからどうやって学習していく？」のような子ども自身の思考を働かせる声かけをしていくことです。しかし、これまでは日々の学習記録が様々な媒体、フォルダに無規則に蓄積され、それらを見返して子どもたちの資質・能力の成長を見取ることが容易ではありませんでした。

そこで、研究の鍵としているのは、特に、タブレットの中 (学習クラウド) への学習記録の蓄積方法です。学習記録を無規則に蓄積したままにせず、三つの力に関係する学習記録をそれぞれの場所を分けて蓄積する。そうすることで、教師は、それぞれの力に関係する学習記録を見返すことが容易になり、子どもたち一人一人に三つの力がどの程度育まれているかを中・長期的に把握することができるとともに、一人一人の学びを最適な形で支援することができます。少しややこしくなりましたが、本校の研究が目指すこのような教育を簡単に表すと、「児童一人一人に応じた丁寧な指導の実現」とまとめられるかもしれません。とは言っても、AIの指示とは違うというような子どもたちの考えを促す「教師による”丁寧な指導の実現」です。

「狩猟→農耕→工業→…」と時代が変われば学校が育むべき力は変わると前述しましたが、いつの時代も現場の教師は、AIにできない「児童一人一人にあった丁寧な指導の実現」を目指しているという点では変わらないと思います。狩猟時代の小学校の先生も恐らくそうでしょう。存在したのであればですが…。

年間重点生活目標「大一ABCを身に付けよう」

今月の生活目標

生活のめあて 廊下は静かに歩く ~廊下は静かに歩きましょう~
 保健のめあて ハンカチとちりがみを身に付けよう
 給食のめあて 正しく配ぜんしよう



9月の行事予定

日付	曜	主な行事	日付	曜	主な行事
1	木	始業式 給食なし	16	金	児童集会
2	金	給食始 1年生5時間授業開始	17	土	
3	土		18	日	
4	日		19	月	敬老の日
5	月	計測(1年) 委員会 すくすくスクール始	20	火	放送朝会 体育祭練習(始) 体育祭係打合せ①
6	火	放送朝会 計測(2年) 保護者会(1・3・5年) 14:30~	21	水	応援練習(クラス)
7	水	計測(3年) 品川教育の日 午前授業	22	木	音楽朝会
8	木	保護者会(2・4・6年) 14:30~	23	金	秋分の日
9	金	計測(5年) クラブ	24	土	
10	土		25	日	
11	日		26	月	応援練習(クラス)
12	月	計測(6年)	27	火	放送朝会
13	火	放送朝会 午前授業 計測(4年) 研究授業(1梅・3松)	28	水	応援練習①(1校時) 8:45~松 9:10~竹
14	水	応援団練習(始) フレンドタイム	29	木	応援練習②(1校時) 8:45~梅 9:10~月
15	木	避難訓練	30	金	応援練習予備日

1年月組担任の長澤教諭はご結婚により、2学期より金谷(カナヤ)教諭となります。

生活指導部より

生活指導部 中元 早紀子

元気に2学期を過ごすために

今年の夏も暑い日が続きました。また、暑さに加えて連日、新型コロナウイルス感染症にかかわるニュースが流れ、不安やストレスを感じる方も多かったと思います。そんな中、全員が無事に夏休みを過ごし、新学期を迎えることができたことをうれしく思います。

9月の生活目標は「廊下は静かに歩く」です。体育や専科の授業などで教室を移動するときに廊下を上手に歩くことができることを目指します。保健目標は「ハンカチとちり紙を身に付けよう」です。まだ暑い日が続くので汗をかきます。また、感染症予防のためにこまめに手を洗います。ハンカチをしっかり身に付けて衛生的な生活ができるようにしましょう。規則正しい生活のリズムを取り戻して、元気に2学期をスタートしましょう。

「ルーコラム」かかわる・創る

音楽専科 前田 圭子

この2・3年、「クラスのみんで合唱曲を歌いハーモニーを味わった…」という時間がなかなかもてないでいます。歌声でハーモニーをつくることはとても難しいのですが、だからこそハーモニーが生まれた瞬間は心が熱くなります。そこで「授業で気軽に“ハーモニー”を味わうことができないだろうか」と考え、常時活動の「今月の歌」にハンドベルやトーンチャイムを使って和音や副旋律をつける活動をすることにしました。毎回、担当するベルを決め、楽譜を見ながらメロディーに音を重ねていきます。同時に2つ以上の音を鳴らす時には、離れた誰かと気持ちを合わせなければいけません。そして副旋律の横の流れをつくるには、音量のバランスに気を付けながら次の人に音を送り届ける気持ちが必要です。自分が間違えないように気を付けるだけでなく、他者と気持ちを合わせることが良い演奏につながります。きれいなハーモニーが生まれ満足いく演奏だった時には、自然と笑顔と拍手が沸き起こります。

コロナ禍で様々な活動が制限される中でも、音を通して他者とかがわることのできる活動を模索して実践していきたいと思っています。